

特集 暮らしを彩るハーブ



長命草(ホタンボウフウ)
古来より万病に効く薬草として知られ、喘息・肝臓病・腎臓病・高血圧・リウマチ・神経痛に効くとされています。八里山では御薬での神様への捧げものにするなど、神聖な植物として大切にされてきました。この長命草も立派な沖縄のハーブです。



すみれの七草粥
當西さんお手製のおかゆ。お刺身用の七草粥もこんなに鮮やかに変身。色とりどりのすみれの花が可憐でかわいらしい。

スーパードに行けば年中同じような野菜が季節感なく並び、欲しいものはいつでも手に入る。野菜は「八百屋」魚介類は「魚屋」豆腐は「豆腐屋」、商店街でそれぞれを尋ねて店の主人と話しをしながら旬の野菜や魚を買う。そんな光景が、今ではもう昔話のように、とんと色あせてしまった。「食育」という言葉が、大変大御なものであるかのように語られ、推奨され始めるすいぶん前から、わたしたちの「食」は本来あるべき姿から遠く離れてしまっていたように思う。善悪の問題ではないのだが、矛盾していると漠然と思う。

そんな現代において、四季折々の恵みである、野草・ハーブをこよなく愛し、日々の生活に取り入れている「ハーブの先生」がいる。

今回はそんな「ハーブの先生」、農業法人・石垣胡椒園代表の當西洋子さんを訪ねた。



當西 洋子 さん
農業法人石垣島胡椒園代表

与那国島出身、現在石垣市平得にてビバーチ、パフの生産加工販売なども手掛ける一方で、様々な分野で講師として活躍している。
 (NPO)JHS認定指導者養成校「石垣島ハーブスクール」代表
 (NPO)ジャパンハーブソサエティー上級認定講師
 (NPO)ジャパンハーブソサエティー八里山支部 支部長
 ハーブボタニカルアート講師
 ハーブオイル/バスストーンインストラクター
 沖縄(八里山)食文化推進協議会委員

